

2019 年度 事業計画

■ 本学園は、2017 年 2 月に中期方針を表明し、建学の精神に基づく将来的なビジョンを掲げた。そして、組織、事業、教育、業務の目標達成度を重要な経営指標（KPI）に示し、5 年間の行動計画を策定している。

しかし、その後、私大の入学定員管理の厳格化、東京 23 区内の定員抑制など、本学園の発展を抑制しかねない規則が定められた。我々は、新しい環境に即応して歩みを止めず、次の改革・改善に取り組む必要がある。

少子高齢化が進み、全ての私学は激しい環境に置かれている。その中であっても、本学園は各部門が地道な活動を実践し、積極的に教育と事務改革に取り組んできた。これらを支える財政基盤も充実されつつある。

2019 年度は学園のグローバル化を加速させる年である。9 月には米国州立テンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）の教室が学園内に移転して両大学間の単位互換制度が本格的にスタートする。昭和ポストン後の海外プログラムとして注目を集めている。海外 3 協定大学と本学とのダブルディグリー・プログラムも充実させた。中高部ではカナダへの長期留学が開始する。そして、TUJ やブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和と施設を共有するスーパーグローバルキャンパスが誕生し、ダイバーシティ環境が実現する。

そして、各部門のキャリア支援をさらに充実させる年である。大学の実就職率は 8 年連続で全女子大学中 1 位を維持している。中高部では本科コースに加え、グローバル、サイエンスコースが開始した。多様な進路希望に対応する進路支援体制を整備する。

2019 年度の事業計画は、各部門の教育・研究環境を充実させ、国際的に高い評価を得る学園の姿を目指している。2020 年度の創立 100 周年に向かい、着実に結果を出すことを目的とする。

2019 年 3 月 29 日

学校法人昭和女子大学

I. 学園全体

A. 組織体制

今後5年間の管理職の自然減と、アンバランスな年齢構成を是正するために、適正な職員の異動を実施する。また、総職員数を抑制しながらも若手人材を厳選して採用する。

中高部およびこども園は、現体制を維持し、初等部は組織体制を見直すとともに、空席だった副校長を外部から招聘する。

1. 大学組織

テンプレ大学ジャパンキャンパス（TUJ）と連携した、世田谷キャンパスのグローバル化推進プロジェクトを支援する。

大学教員の高齢化に対応し、役職者の早期抜擢や新規採用などの人事配置を継続する。

2. 大学職員組織

教学支援センター国際交流課を発展的に解消し、国際交流センターを新設。傘下に国際交流課を置く。外部から豊富な国際経験を有する人材をセンター長として招聘する。

3. 附属校組織

全ての附属校の庶務室の名称を事務室に変更し、役職名を庶務部長から事務長に変更する。

児童の実情と保護者ニーズの変化に対応し、よりきめ細やかな指導を行うため、初等部の校務分掌を見直す。

4. 創立100周年の準備

担当理事と総務部を中心に、職員SDチームやサポーターズ・クラブと連携して、創立100周年記念事業に取り組む。

5. TUJと連携

国際連携本部とタスクフォースメンバーを中心に、学園全体でTUJとの連携内容・方法を策定し、9月からお互いの担当部署を決めて実行に移す。

B. 人事計画

1. 適正な人件費

中期目標の人員配置を前提とし、人件費比率は55%以内を目標とする。

2. 人事評価制度再構築

教職員ごとの人事評価制度の運用を再評価し、公正で個々人の働き方や貢献が報われる、メリハリある人事評価制度について具体的に検討する。

3. 働き方改革関連法令

4月1日に施行される「働き方改革関連法令（労働基準法、労働安全衛生法、労働時間等設定改善法、労働契約法等）の大幅な改正」に対応し、年5日間の年次有給休暇取得の必須化や、月60時間を超える残業代の割増率引き上げなどの強制法規項目に対応し、服務規程の改定を含めた具体的な見直しを行う。

部門長・所属長が簡便に所属員の勤務実態を把握するツールを提供し、教職員の健康管理と長時間労働抑制に取り組む。

C. 学園のグローバル化

TUJ キャンパスの移転を機に、TUJ や BST などとの交流機会を設けて学園全体のグローバル化を推進する。

1. 多様な文化との交流によるグローバル化

推進される学園のダイバーシティに対応できるよう、児童・生徒・学生・保護者・教職員に啓発・教育する機会を設ける。

2. 語学力向上

こども園・初等部・中高部・大学各部門で相互交流を図り、語学力とグローバル意識を高める教育を実践する。

3. 昭和ボストンとの連携

単位互換やダブルディグリー・プログラム履修希望者の支援のため、昭和ボストンのプログラム強化とともに海外協定大学への留学・進学意欲を向上させる。

4. 全学生・生徒・児童との交流

一体化したグローバルな環境を活用できるよう、クラブやプロジェクトなど児童・生徒・学生の課外活動を推進する。

D. 昭和ボストン

学生の学力と学習意欲の向上に対応し、カリキュラムや授業内容に工夫を加える。

1. 上位学生の能力向上

海外協定大学留学やTUJ ダブルディグリー・プログラムなど、昭和ボストン修了後の留学制度が充実した。より多くの学生がこれらのプログラムを選択できるよう、学力上位層や意欲の高い学生に対する授業を見直し、語学力と高度な専門性を習得できる内容とする。

2. 学生の能力開発

カリキュラムの改善を図るとともに、全学生が高いモチベーションを維持できる学習環境を備える。

3. 協定大学の開拓

ボストン近郊の協定大学を開発し、昭和ボストン修了後の継続留学プログラムを充実させる。

E. キャンパス整備

1. 施設設備の建築・改修計画（主な 14 件）

2019 年度に計画する主な建設・改修は以下の通り。

- ① [仮称] 西キャンパス新校舎建設（7 月竣工予定）
- ② 正門通りの外構整備（第 2 期：9 月完了予定）
- ③ 西門周辺の外構整備（9 月完了予定）
- ④ 空調・照明機器を省エネ機器に更新（9 月完了予定）
- ⑤ 学生ホール改修工事（9 月完了予定）
- ⑥ 2 号館 4 階廊下 内装改修工事（4 月完了予定）
- ⑦ 2 号館 実験室改修（9 月完了予定）
- ⑧ グリーンホール改修工事（LED 照明・音響映像設備）（9 月完了予定）

- ⑨ 3号館 エレベーター改修工事（9月完了予定）
- ⑩ 6号館 実験室改修工事（9月完了予定）
- ⑪ 中高2号館 エントランス改修工事（8月完了予定）
- ⑫ こども園 3階テラス改修工事（8月完了予定）
- ⑬ こども園 エントランス入口扉新設（8月完了予定）
- ⑭ 東明学林・望秀海浜学寮 教室空調機設置工事（4月完了予定）

F. 経営基盤強化

外部資金など学納金以外の収入を獲得する具体策を検討する。

1. 外部資金獲得

科学研究費や委託研究費、プロジェクト研究助成金など外部資金を積極的に獲得し、事業収入の多様化に努める。

2. 寄付制度

- ① 奨学金や施設の充実など、目的を指定した寄付制度を設けて多様な支援者に寄付を募る。
- ② 外部人材を採用して学園の寄付金獲得戦略を立案する。
- ③ 学園の様々なイベントや施設を寄付金獲得の観点から見直し、寄付者を開拓する。
- ④ 卒業生に限らず様々な人たちとのネットワークを構築する。

3. 収入の多角化

校舎の賃貸事業など、現有施設を活用して安定した収入源を獲得する。

人見記念講堂の活用法、講座やイベントなどの収益事業の実施を検討する。

4. 経費管理

コスト意識を高めて効率的な経費支出を実現させる。

5. 財務データ活用

学園内外の経営環境を常に把握して的確に判断できるよう、財務データなどを活用して積極的に報告や提言を行う。

G. 保護者・卒業生・企業と連携

サポーターズ・クラブ会員数拡大のため、各部門の同窓会と連携して募集活動を積極的に進める。学園で行う各種イベントに関する情報を会員に提供し、学園と繋がる実感を持てるよう努める。

また、学園のファンドレイジング活動を活性化するため、従来の活動を検証し、必要な諸策を実行する。

大学・大学院

A. 学部・学科・カリキュラム

各学科のストロングポイントや将来構想を意識して、カリキュラムの方向性を明確にしながら教員人事を計画する。学部・学科の設置計画の履行と併せ、開設科目の精選と社会の人材ニーズに即応したカリキュラムを編成する。

2019年度以降の主な取り組みは以下の通り。

1. 改組準備

環境デザイン学科のカリキュラムなどを見直す。「デザイン」を切り口に、現代の人・環境・社会が抱える課題を発見し、解決できる人材を育成する。

2. 将来構想

大学将来構想検討委員会の主導で、社会ニーズに対応した改組などを検討する。社会人対象の大学院1年制コースの開設について検討を開始する。

3. 駒沢パークインターナショナルスクールとの連携

スクール教師による児童英語教育講座を開講する。

B. 教育の質的転換

1. 学修時間の増加

学生の学修時間の増加を目的に、マップやツリーを活用してカリキュラムをスリム化し、体系的に配置して、計画的に学習できる環境を整備する。

2. シラバスの実質化

ディプロマポリシーと科目との関係がわかるよう、シラバスに掲載する内容を工夫して、体系的に履修するよう指導を行う。

3. 教育方法

主体性を引き出すために多様な教育方法に取り組み、それを検証して教育の改善につなげる。

4. 総合教育センター

担当副学長と総合教育センター長を中心にワーキンググループを設置。総合教育センター、一般教養科目、外国語科目の将来計画について検討する。

5. FD活動

3つのポリシーをふまえた全学的な取り組みとして、授業改善アンケート、FD研修会、授業公開などを実施し、各学科の専門分野を踏まえたFD活動を展開し、授業内容・方法を改善・向上させる組織的な活動を推進する。

C. 語学力強化

各学科の学生の語学力到達目標と達成率を検証し、他分野に適用可能か検討する。

D. 取組の充実

文科省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業の成果を踏襲し、グローバルな環境を活かしてさらに充実させる。

- ① 海外協定大学や TUJ など単位履修やダブルディグリー・プログラムを取得する学生を増加させる。
- ② 幅広い国や地域からの優秀な学生を獲得するため、留学生の支援体制整備と非正規留学生向けのプログラムの充実をはかる。
- ③ 昭和ポストンのサマーセッションやセメスター・プログラムなど、全学対象のプログラムを充実させる。
- ④ 海外協定大学との関係を深め、交換留学制度を充実させる。

E. 学習支援・キャリア教育

人生を生きぬく力を「夢を実現する7つの力」に示し、グローバル社会で自立し、社会で役割を担える人材の育成を目標としてそれぞれの力を育成する。

1. 体系的キャリア教育

各学科のキャリアデザインポリシーに基づき、1年次から体系的なキャリア教育を実践する。社会人メンターからのサポート、現代ビジネス研究所でのプロジェクト、コミュニティサービスラーニングセンターを窓口としたボランティア活動など、正課内外の学習機会を充実させる。

2. オナーズクラス

全学のロールモデルとなる学生を育成するオナーズクラス・リーダーズアカデミーの次のステージ・Co-Creation Challenge をスタートさせる。国連が掲げる「SDGs（持続可能な開発目標）」など、学生が地球規模の課題解決を考え、社会に触れ、社会に迫り、社会を変えるプログラムを運営する。

3. キャリア支援

就職活動・キャリア支援の個別相談体制を充実させ、学生の多様なニーズに対応する。

学生のインターンシップ先をさらに開拓し、質の高い情報を提供して就業体験の場を広げる。

引き続き就職活動を積極的に支援し、希望学生に対する就職率100%と進路の質向上を目指す。

F. 研究活動

1. 競争的資金

科学研究費などの競争的資金の採択率向上に資する取り組みを推進する。

2. 負担軽減

研究費の執行ルールの見直しや支援により、教員の事務負担の軽減に努める。

3. 成果の情報発信

各研究所や教員個別の活動の積極的な情報発信に努める。また、教員の海外での学会発表を促進する制度を創設する。

4. 倫理教育

研究倫理を向上させる教育・研修を教員、大学院生、学生に対して行う。

5. 研究推進

学内での共同研究を企画・推進するために、学術研究委員会の取り組みを充実させる。

G. 外部と連携

1. 社会連携・社会貢献

昭和リエゾンセンターと各学科が連携し、企業や地域と協働する学生のプロジェクト活動を支援して、企業や地域の課題解決への取り組みを推進する。

自治体や企業などとの包括協定・連携協定に基づく事業や調査研究を実施する。

2. 共同研究・受託研究

企業や官公庁などのニーズに対応し、共同研究や受託研究を推進する。また、教員個別の研究情報を発信し共同研究や受託研究の活性化を図る。

H. 学生募集

本学の入学難易度、志願者・入学者データを分析して入学希望者の質向上に取り組む。

各種メディアを活用し、積極的な情報発信を行う。

高等学校や進学塾、大学入試関連企業との連携を深め、情報提供や意見交換を行う。

2021年度から変わる大学入学者選抜を見据え、本学入試の内容を検討して準備する。

受験人口減少期に備え、カリキュラムの改正や改組などを提案する。

II. 附属昭和中学校・高等学校

A. 教育改革

1. 中高部将来構想検討委員会

文科省「society5.0に向けた人材育成」の方針を踏まえ、中高部将来構想検討委員会において教育改革を推進する。カリキュラム再編成、学校行事精選などを通して、主体性・自律性を備えた生涯学習続ける能動的学習者を育成する。

2. アクティブラーニング

認知的・倫理的・社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力を育成するために、授業でアクティブラーニングの手法を積極的・効果的に取り入れる。新設する教育研究担当を中心に探究学習を一層進化させ、教科横断型カリキュラムの開発にも着手する。

3. ICT

2018年度から開始したBYOD(Bring Your Own Device)を1年から5年まで拡充し、校務・学習支援プラットフォーム「Classi」を使用しながら、授業や学習指導、保護者や生徒とのコミュニケーション、教員業務の効率化などに活用する。

4. 教育力の見える化

非常勤を含めた教師全員が研究授業を実践し、生徒や保護者による授業評価・学校評価のアンケートを継続して行うことで教師の教育力の向上を図り、教育改革に継続的に取り組む。

B. 教育のグローバル化

1. 企画会議

NEXT 戦略室を企画会議に統合し、ポスト SGH 事業実行委員会、ユネスコスクール推進委員会、ICT 推進委員会、教育課程研究指定事業などを統括・管理する。

2. グローバル留学コース

グローバル留学コース4年生が10か月間カナダへ留学する。海外での学習支援と並行し、留学後のカリキュラムを構築する。

中学3年生の英語は、現地高校のESLプログラムと連携しながら英語力の向上を目指す。英語検定取得状況を基準に英語力を評価し、カリキュラムと授業内容を検証・検討する。中学3年次で全員2級取得を目指す。

3. スーパーサイエンスコース

昨年度開設したスーパーサイエンスコースのカリキュラムに、STEAM (Science, Technology, Engineering, Art and Math) 教育の視点を取り入れ、授業内容の一層の高度化を図る。昭和女子大学や昭和大学などとの高大連携プログラムも活用しながら、将来理系分野で社会に貢献できる人材を育成する。

4. グローバル化と海外ネットワーク

キャンパスを共有するブリティッシュスクール・イン・トウキョウ昭和 (BST) やテンプル大学ジャパンキャンパス (TUJ) との連携を強化する。国内外のユネスコスクールと連携するとともに、提携校・協力校の拡充・連携強化を目指し、海外研修プログラムの高度化を目指す。

C. 進路・キャリア支援

1. 多様な進路選択

本科、グローバル留学、スーパーサイエンス各コースのカリキュラムを活かし、幅広い分野に進学できる学力を定着させる。各学年に進路指導担当を配置し、習熟度別クラス編成などを通して、国公立大学や医学部など理系への進学支援を強化する。あわせて、教員による個別指導や外部リソースによる課外講座など、進路支援プログラムの一層の充実を図る。

2. 学習意欲と進学意欲の向上

1年生を対象として秋に学寮研修を実施し、学習習慣の定着と進路意識醸成のプログラムを行う。中高6年間の学力向上ストーリーを描かせ、一人ひとりの着実な学力伸長とキャリア形成を支援する。

3. 生徒と学校全体の学力把握

外部試験や客観的テストの成績を生徒の進路指導に役立てる。また、学校全体の学力レベルを把握して教育改革を推進する。

4. 五修生制度

1年早く併設大学の授業を受ける五修生制度により、中高大9年間で協定大学とのダブルディグリー・プログラムを生徒に周知・奨励する。

5. 数値目標

中期方針の重要項目に設定されている進路・キャリア支援について、数値目標を定めて取組状況と達成度を将来構想検討委員会で検証する。

D. 保護者連携

保護者による学校評価アンケート、授業参観での授業評価アンケートを引き続き実施する。個人面談など保護者が教育目標を理解する機会を増やし、生徒の成長を学校と家庭が連携して促進できる環境を整備する。「Classi」の有効活用により、保護者との日常的コミュニケーションを一層充実させる。SNSなどを活用し、日常的に学校生活の情報を発信する。

E. 生徒募集

中高部での学修・身につけた力が、将来のキャリアにどうつながるかストーリーを明確にして情報を発信する。

帰国生を積極的に受け入れることで学校の多様性を図る。

III. 附属昭和小学校

A. 教育・指導力向上

校務分掌を見直して入試・企画部、広報部、生活安全部、健康安全部の4部を組織し、管理部を解消して教育課題の解決に対応する体制を整える。管理部に関わる連絡は事務部門が対応する。

PC教室を改築して多用途のアクティブラーニングルーム（仮称）を整備。柔軟な学びの場を提供する。携帯型端末を児童が活用する教育活動を試行し、一部の教科でデジタル教科書活用について研究する。コンピュータによる教務システムの導入など、事務の効率化を検討して作業負担の軽減を図る。

B. 児童の個性伸長

児童一人ひとりの個性や特性を全教員がより深く理解し、児童情報委員会を組織して定期的に情報を交換し合う。

また、個別対応の指導補助員の導入を検討する。

C. 広報活動

新設する広報部から学園内外に学校・入試情報を発信する。4月末に東京私立初等学校協会が主催する私立学校展に参加し、受験者層の開拓を図るとともに本校の特色を重点的に宣伝する。説明会参加者からの収集情報を児童募集活動に活用する。

帰国子女の受け入れを積極的に進め、広報活動への活かし方を検討する。

D. 校外学習

長年、固定していた校外学習を検討し、初等部3つの目標のひとつ「からだを丈夫にする人」を具現化するため、1年生から6年生まで登山を念頭においた活動として校外学習を実施する。

E. 昭和教育の再確認

大幅な教職員の入れ替えに伴い、学園の建学精神に基づく初等部の教育をふりかえり、今後の方向性を再確認する。各種行事や組織の目的を明確にして明文化する。

F. 学園内連携

ブリティッシュスクール・イン・トウキョウ昭和との連携を強化し、活発化を検討し実行する。

昭和こども園の家庭を対象に内部説明会を開催し、教員の相互交流を図る。

アフタースクールとの連絡を密にとり、協力や支援を検討する。

IV. 附属昭和こども園

A. 教育・保育

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿って園児の主体的な活動を確保し、園児一人ひとりの行動の理解と予測に基づき計画的に環境を構成する。

0歳児から小学校就学前まで一貫した教育・保育を、園児の発達や学びの連続性を考慮し展開していく。体育、音楽、ダンス、ICTなど、多様な選択の機会を提供する。

「教育・人材育成プロジェクト」を中心に、より良い教育・保育の実現に向けて保育教諭の育成計画を策定する。

「こども環境あそびプロジェクト」を通して、「あそび」から生まれる学びを追求していく。

「English Project」を立ち上げ、グローバル化が進む世界に羽ばたく人材となる基礎を養い、2歳児から小学校就学前までの一貫した英語との関わる環境を整備する。

「音楽プロジェクト」を立ち上げ、乳幼児期にふさわしい音楽体験を検討する。

「からだづくりプロジェクト」を中心に、子どものこころとからだの育成を図る。

B. 地域貢献

地域に向けた子育て支援活動をさらに充実させると同時に、地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができる機会を確保する。

世田谷区の「乳幼児を対象とした文化・芸術体験事業」の研究・検証に協力する。

C. 異年齢交流

こども園から大学院までがひとつのキャンパスにあることのメリットを最大限に生かし、施設の垣根を越えた交流を実現する。

① 初等部との連携

年長組と1年生の交流（英語・音楽・小学校探検など）

年長組と5年生の交流（昭和っこの運動会への参加）

年中組と4年生の交流（小学校探検など）

乳児組と6年生の交流（乳児保育体験など）

② 中高部との連携

サービスマスターの積極的な受け入れ（年間8回）

保育実習の受け入れ（年間100人）

③ 大学・大学院との連携

実習生の受け入れ（年間12人）

学生のアンケート調査研究への協力（年間8件）

学生の授業の一環としての交流（随時）

④ ブリティッシュスクール・イン・トウキョウ昭和との連携

保育実習インターンシップの受け入れ（随時）

⑤ 駒沢パークインターナショナルスクールとの連携（相互で協議）